

この先生にズームイン

ピンクリボン運動を応援

特別な日には、ジャケットに乳がん検診を啓発するピンクリボンのピンバッジを着用。身近な人が乳がんになって以来、スマイルウォークに参加するなど、8年ほど前からできる範囲でピンクリボン運動などに参加している。



余興大好き! お任せあれ!

友人の結婚式に呼ばれるたび、オールブラックスのハカを踊ったりマジックをしたりと、趣向を凝らした余興をソロで披露し盛り上げる。昨年10月の自身の結婚式ではライオンのカチューシャを着け、サプライズで「ライオンキング」の歌をミュージカル風にパフォーマンスしたとか。



ユニーク&多彩なスポーツ歴

幼稚園でラグビーを習い、小学4年生から始めたなぎなたでは当時、出身県内唯一の男子選手であり、全国大会にも出場した。さらに、中学はテニス部、高校は野球部に所属。大学では障害者スポーツを支援・普及する側に回るなど、さまざまな形でスポーツに親しんできた。



先生に質問!

A 南アフリカの共生教育の研究は、私の知る限り日本ではほとんどとされていないので、私だからこそ話せることがあります。それから聞いた学生は「こういう現実があったんだ」と驚く反応が多いですね。共生は日本ではポジティブな言葉として浸透していますが、授業ではその背景にあるネガティブな側面なども恐れることなく語る場にし、社会で他者と共に生きるということについて真剣に考える時間になりたいと思っています。

Q 授業で心掛けていることは。

A 高校で必修となっている「ライフォリエンテーション」という教科です。過去のアパルトヘイトの加害者と被害者には互いに乗り越えきれない負の感情があることを前提にしているのが特徴で、きれいごとでは語り尽くせない切実な共生社会実現のための教育が行われています。憲法や歴史をはじめとする座学だけでなく、スポーツや地域でのボランティアといった教室外での活動も交えながら、シティズンシップやストレスマネジメント、チームワークなど他者と共に生き延びるためのスキルを学ぶ点が興味深く、共生教育では世界でも先進的な事例です。

Q 特に着目している点は。

A 共生社会実現のための教育について、社会的観点から研究しています。1990年代前半まで法律による人種差別が行われていた南アフリカで今、異なる人種間の共生を目指す教育がどのように行われているか、フィールドワークを中心に研究しています。

Q 先生のご専門は。

A 共生社会実現のための教育について、社会的観点から研究しています。

鮮やかな色彩がお気に入り

研究で南アフリカに行くたびに、伝統的なビーズ細工など現地の民芸品や土産品を購入してきた。今年は久しぶりに現地に足を運び、最新の状況についてフィールドワークを行う予定だという。



友人は世界各地に

南アフリカを訪れたきっかけは、高校時代、スコットランドにホームステイした際に同国出身の留学生がいたこと。大学時代には世界7カ国の学生と共に、各国でホームステイしながら現地の教育を調査して回るプログラムに参加した経験も。交流は今も続いており、写真は結婚祝いにホストブラザーから贈られたもの。



さか ぐち まさ やす 坂口真康 助教

グローバル化推進教育リーダーコース

奈良県出身。平成22(2010)年筑波大学第二学群人間学類卒業、28年同大学大学院人間総合学研究所3年制博士課程ヒューマンケア科学専攻を修了(教育学博士)。24~26年日本学術振興会特別研究員(DC1)などを経て、28年に兵庫教育大学特命助教、30年1月から現職。専門分野は教育社会学。授業は「国際理解教育」「世界の教育」(いずれも専門職学位課程)などを担当。